経鼻インフルエンザワクチンの説明書

インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こります。インフルエンザにかかった人が咳やくしゃみなどをすることにより、ウイルスが空気中に広がり、それを吸い込むことによって感染します。典型的な症状は、突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などで、のどの痛み、咳、鼻水などもみられます。普通のかぜに比べて全身症状が強いことが特徴です。気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することが多いのもインフルエンザの特徴です。また、流行が始まると短期間に小児から高齢者まで膨大な数の人を巻き込み、ときに 65 歳以上の高齢者や慢性疾患患者で、死亡率が普段より高くなるという点でも普通のかぜとは異なります。

本ワクチンはインフルエンザウイルスを弱毒化した生ワクチンです。接種後に体の中で増えたワクチンウイルスに対する免疫ができ、インフルエンザウイルスの感染を予防します。

接種前の一般的注意

説明書をよく読み、接種の必要性や副反応についてよく理解し、気にかかることやわからないことがあれば、予防接種をうける前に医師や看護師に質問しましょう。十分に納得出来ない場合は接種するのは控えて下さい。
予診票は、接種する医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種される方が責任をもって記入してください。

予防接種を受けることができない人

① 明らかに発熱のある人（一般的に、体温が 37.5℃を超える人）
② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
③ インフルエンザワクチンの接種液の成分によって、アナフィラキシーショックをおこしたことがある人
※「アナフィラキシー」というのは通常接種後約 30 分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。
④ その他、医師が不適当な状態と判断した場合

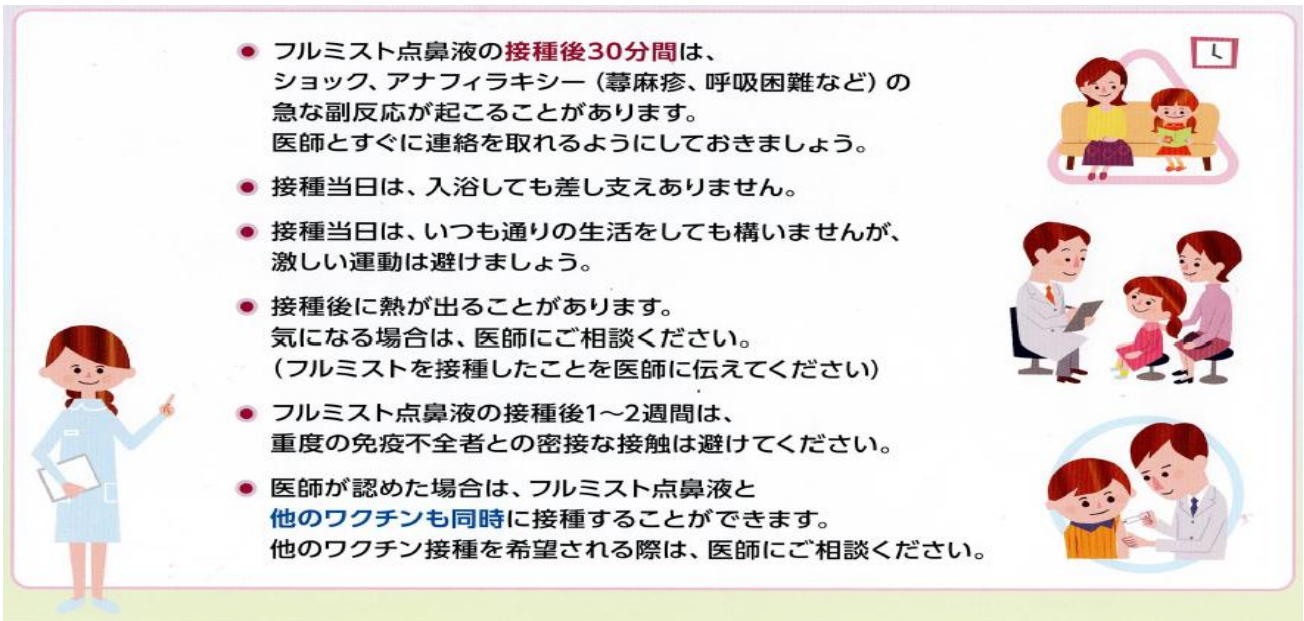
予防接種を受ける前に、医師とよく相談しなくてはならない人

① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液その他慢性の疾患で治療をうけている人
② 以前にインフルエンザの予防接種を受けたとき、2 日以内に発熱、発疹、蕁麻疹などアレルギーを思わす異常がみられた人
③ 今までにけいれんを起こした事がある人
④ 今までに中耳炎や肺炎などによくかかり、免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人
⑤ 鶏卵、鶏肉、その他の鶏由来のものに対して、アレルギーがあるといわれた人
また、安定剤として精製ゼラチンを含みますので、ゼラチン含有食品に対して過敏症のある方は注意が必要です

予防接種を受けた後の注意事項

① 接種後 30 分間は、急な副反応が起こることがあります。すぐ連絡をとれるようにしておきましょう
② インフルエンザワクチンの副反応の多くは 24 時間以内に出現しますので体調に注意しましょう
③ 入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう
④ 接種当日はいつも通りの生活をしてもかまいませんが、激しい運動や大量飲酒は避けましょう

⑤ 本剤は弱毒生インフルエンザワクチンであり、飛沫または接触によりワクチンウイルスの水平伝播の可能性があるために、ワクチン接種後 1～２週間は重度の免疫不全者との密接な関係を可能な限り避ける必要がある

副反応が起こった場合

予防接種の後、まれに副反応が起こることがあります。また、予防接種と同時にほかの病気がたまたま重なって現れることがあります。予防接種を受けたあと、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身の蕁麻疹、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたら、医師の診察を受けてください。これまでの注射によるインフルエンザワクチンと比べ、副反応の頻度や程度が大きく違うということはないと考えています。なお、副反応による健康被害が生じた場合の救済については、健康被害を受けた方または家族が独立行政法人 医薬品医療機器総合機構法に基づいて手続きを行うことになります。詳しくは独立行政法人 医薬品医療機器総合機構のホームページ（https://www.pmda.go.jp/）をご覧ください。